

研究主題 「主体的・創造的に問題解決できる子」の育成

～コミュニケーション能力の育成による、
より積極的に地域にかかわることのできる総合的な学習の時間をめざして～

主題設定の理由

本校の児童は、勤労生産活動を本校の伝統と受け止め、各学年に進級するにあたって、次は何を育てるのか、どうやって世話をすればよいのか主体的に考え、意欲的に取り組んでいる。勤労生産活動での気付きから課題作りをする総合的な学習においても、課題を見付け、友達と協力して問題を解決しようとする姿が多く見られた。そこでは、それまでに総合的な学習や各教科で身に付けた力が問題解決の拠りどころとなっている。しかし、勤労生産活動には進んで取り組むことができても、総合的な学習の時間の中で、「自分の考えをグループや学級、全校に発信したり、友だちと話し合ったりする力」「他の人や社会とのかかわりを積極的にもとうとする態度やそこから学ぶ姿勢」に弱さが見られた。そこで、一人一人が自分の考えをもって発信し、人の話を聞いてそれに対する考えをもち、相手にわかりやすく伝えることができるようになれば、より積極的に他とかわることができる総合的な学習の時間になると考え、主題を設定した。

研究の仮説 教科の学習で児童のコミュニケーション能力を育てる方法を明らかにし、総合的な学習の時間において適切な支援をすれば、コミュニケーション能力を育てることができる。また、総合的な学習の時間において明らかになった一人一人のコミュニケーション能力の弱さを分析把握し、重点的に指導していく点を明確にして教科指導にあたれば、児童のコミュニケーション能力を育て、主体的・創造的に問題解決できる子に近づく。

研究内容

年間指導計画の作成

- ・年間指導計画作成
- ・教科の中で重点的にコミュニケーション能力を育てる単元を計画的に位置付ける。

授業実践

コミュニケーション能力という視点に立ち、教科と総合的な学習の有機的な関連を授業実践で検証する。

- ・児童理解と支援に生きるノートづくり
- ・話す・聞く姿勢の徹底

本校の考えるコミュニケーション能力とは、伝えようとする内容をもつ力 表現する力 話を聞いて相手の思いをつかむ力の三つの力ととらえ、それぞれの発達段階における願う姿を次のように考えた。

	低学年	中学年	高学年
	<ul style="list-style-type: none"> 自分の周りの人や自然に進んで関わろうとする。 学習して、分ったことや思ったことをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 話題についての自分の考えをもつ。 活動する中で、思いや感想をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちを考えながら、伝えようとする内容をもつ。 人の話を聞いて疑問をもったり似ていることや違いを見付けたりする。
	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたいことを選び、順序に従って話す。 身振り手振りを交え、自分の言葉で伝えたいことを話す。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手や場に応じて適切な言葉使いで話す。 身振り手振りを交え、表情豊かに表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手に分かりやすいように組み立てを考えたり、資料を使ったりして表現する。 相手の反応を見て、伝わっているか確かめながら話す。
	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞き漏らさないように最後まで聞いて理解する。 分からないことは聞き返す。 	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞いて内容を理解し、伝えようとするをつかむ。 話を聞いて返事をしたり、あいづちを打ったりするなどの反応をしながら聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉や表情から、相手が伝えようとすることや思いをくみ取る。 話し手が話しやすいようにうなずいたり、驚いたり、聞き返したりしながら聞く。

【各学年：教科等との関連の実践一覧】

学校名 学年	テーマ	関連の型	学習活動の内容								
			国際 理解	情 報	環 境	福 祉	健 康	人 権	進 路	郷 土	その 他
3 年	総合「丹生川博士になろう」	独立型									
4 年	総合「花名人さんにインタビュー」	独立型									
5 年	総合「山友タイム」	独立型									
6 年	総合「NBA（丹生川・ボランティア・アンパンマン）」	独立型									

